

>> Box 9.3

Criteria for Return to Play After a Burner

- No neck pain, arm pain, or dysesthesia (impairment of sensation)
- Full pain-free range of motion in the neck and upper extremity
- Normal strength on manual muscle testing as compared to preseason measurements
- Normal deep tendon reflexes
- Negative brachial plexus traction test

Criteria for Return to Play After a Burner (バーナー症候群からの競技復帰基準)	
●	頭部や腕の痛みや感覚障害が無いこと
●	頭部と上肢が、疼痛なく全可動域動かせること。
●	徒手筋力検査で、プレシーズンとの測定と比較して通常の強度があること
●	深部腱反射が正常であること
●	腕神経叢牽引テストが陰性であること

>> Box 9.7

Red Flags that Warrant Immobilization and Immediate Referral to a Physician

- Severe pain, point tenderness, or deformity along the vertebral column
- Loss or change in sensation anywhere in the body
- Paralysis or inability to move a body part
- Diminished or absent reflexes
- Muscle weakness in a myotome
- Pain radiating into the extremities
- Trunk or abdominal pain that may be referred from the visceral organs
- Any injury in which you are uncertain about the severity or nature

Red Flags that Warrant Immobilization and Immediate Referral to a Physician (脊椎外傷の基準「固定し、すぐに医師に診せなければならない危険信号」)	
●	脊柱に沿っての変形や圧痛、激しい痛みがみられる場合
●	身体どこかに感覚の喪失や変化がみられる場合
●	身体の一部を動かす事が出来ない、または麻痺がある場合
●	反射の減少または喪失がみられる場合
●	筋肉における筋力低下がみられる場合
●	四肢への放散痛がみられる場合
●	胸部、腹部の痛みが内臓から考えられる場合
●	重症度や原因が不明なすべての外傷の場合

「Sports Injury Management (LIPPINCOTT WILLIAMS & WILKINS)」より引用、改変したものです

【箕山クリニック : Doctor】

左の表はバーナー症候群からの復帰を許可する Criteria (基準) で、右の表は脊椎損傷において医師に診せるべきかどうかの判断基準が記載されている Criteria です。

アスレティックリハビリテーションにおいても、組織学と運動力学を考え、可動域などの関節機能、筋力などの筋機能の改善の程度を考慮し、どの段階で何を実施していくのかという Criteria が必要です。様々な情報をしっかり取り入れながらも、自分自身の知識と経験から独自の基準を持つことも大切です。

ちなみに、バーナー症候群の traction (牽引) 型では棘上筋と棘下筋の筋力低下が長期に残存していることがありますので、注意しましょう。

【投稿コメント : M's AT project Athletic Trainer】

私が JASA-AT (日本体育協会公認アスレティックトレーナー) の資格を取ったときにはテキストに criteria に相当する記載は無かったように思います。

スポーツ現場において普段関わる事の多い怪我には対応できますが、違った競技に関わる時には、日本でもこういった形のテキストがあると大変便利だと思います。その反面、自らとことん調べて世界を広げていくトレーナーが育ちにくくなるという弊害もあるかもしれないとも感じます。